

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 11 月 6 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472500887		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい西条		
所在地	東広島市西条町寺家7429 (電話) 082-424-8801		
自己評価作成日	令和3年10月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3472500887-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年11月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

医療法人好縁会全体で取り組んでいる生活づくり10か条に基づき介護を行う。
入居者様のADLの変化に応じて研修専門部署である教育研修部と連携し介助方法の見直しや新しい介護用品の導入を行っている。またクリニックとの連携も深く、医療面でも安心して過ごして頂けるように、またご家族様にも安心していただけるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者の健康管理のために24時間オンコール体制での医療が提供されているため安心した生活が送れるようになっている。
座位保持可能であれば、おむつではなくトイレで排泄することを支援しているため、自立した生活が支援されている。このため、利用開始前より利用後の方が元気になっている様子である。
また、毎月行事を実施しており利用者が楽しめるように、職員が楽しんで計画し実施している。

自己評価	外部評価	項目(A ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念に則り事業所の目標を立て、それに準じた目標を個別に計画する用紙を作成(チャレンジシート)	法人理念をもとに、事業所で目標を立て職員一人ひとりが個別のチャレンジシートを作成して目標を立てている。半年に1度、目標に対しての面談を行い、評価につなげている。その中でも利用者への関わりを1番大切に取組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は近隣への散歩の際に挨拶など地域の方と交流の機会があったが最近では散歩の頻度、距離が減り交流の機会が減っている。	コロナ禍以前は、近隣に散歩に出かけ、地域の方との交流が図られたり、スーパーに買い物に行くことで付き合いを維持していたが、現在はできていない。	この地域の自治会等に入り、清掃や活動に参画していくことで、地域になくてはならない存在となることを期待している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々との交流がなかなか取れてはいないが、ご家族からの相談であったり、見学に来られた際には相談内容に沿ってお話をさせていただいている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	報告内容については毎回報告書を作成しそれを基に話をしている。昨年度はご家族代表からの要望で担当職員からご家族への手紙(入居者様の様子等を記入)を再開した。	コロナ禍のため運営推進会議は書面での報告となっている。配布先として地域包括支援センター、民生委員、地域住民に情報共有し質疑応答をいただいてまた再配布している。出てきた要望で利用者の状況がわかるように担当職員がご家族へ近況を送付している事例もある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	コロナ禍により集まっての会議は行えていないが、毎回書面にて送付、事業内容を説明している。	コロナ禍のため、市町への窓口には更新申請のみ行っているが、介護保険等で困ったことや、相談をしたいときには電話にて問い合わせることで相談できる体制は維持できている。	

自己評価	外部評価	項目(A ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内外の研修を通して、身体拘束に対する理解を高めている。また、昼夜間での安全目的以外での施錠は行っておらず、玄関も開放している。	身体拘束をしないための研修をオンラインで年に2回受講するようにしている。 工夫としては、声かけの仕方や頻度を変えたり、一緒に行動を共にするようにし、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会への参加や、実際に現場で不適切な場面を見かけた際は都度注意を行い情報発信を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内の研修に参加し制度の勉強、理解を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に同意を得ており、その後も個人的な質問に随時対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話や面会時にご要望を受けた際には申し送り時や文書作成及び回覧にて周知改善を行っている。	コロナ禍の前は、行事やイベントで意見を確認していたが現在は荷物持参時や、窓越し面会時に意見を聞き反映している。具体的な内容では、近況を教えてほしいとの要望に対し、担当職員が手紙を送る対応をした事例もある。	

自己評価	外部評価	項目(A ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り時や普段の会話内容から検討できる部分は検討を行い、再度職員の意見を取り入れつつ反映を行っている。	普段の雑談や、申し送り時に職員の意見を聞くようにしている。利用者に対してのケア方法改善においては、職員のケアの時間を変更したり、職員が働きやすくするために勤務体制において要望に沿うようにしている。また、個別の相談があるときには時間外でも応じるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	チャレンジシートの導入にて個々の年間目標を定め、やりがいにつなげている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	介護部門のマニュアルの統合整備を行い、新入職員へ行う教育が全事業所で統一された。現在は実地で使用しながら精度を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者単位では系列施設との連絡会議や研修会などで情報交換、交流の機会を得ている。職員単位では自施設・他施設の人員不足時に職員の応援で相互にやり取りがある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	担当の職員を設定し日常生活に積極的に関わることで信頼関係を構築できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(A ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>電話や面会、手紙等を通してできるだけ受け止める努力をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>センター方式を取り入れ対応している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>普段から掃除やテーブル拭きなど可能な範囲で手伝っていただき、出来る事はしていただけるよう援助を行っている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>衣替えや布団の入れ替え等、節目に応じた対応をご家族には依頼し、ご本人の生活の一端を支えていただくようにしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>居室内での面会は中止しているが、窓越し面会や距離を置いての面会など関係性を保てるよう努力している。</p>	<p>コロナ禍のため、現状はなじみの人や場所との関係継続が難しい状況となっているが、状況が落ち着きさえすれば、地域の行事やイベントに積極的に参加していきたいと管理者は考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(A ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しがちな利用者をリビングにお連れしたり、会話が可能な利用者様同士を隣席にしたりと関係性構築と孤立防止に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	特別の働きかけ、取り組みは行っていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向はもちろんのこと、自身の意思表示が難しい方については生活歴や家族の意向を踏まえてニーズの把握を行っている。	利用開始時にアセスメントをしっかりと行い、一人ひとりの思いや暮らしを把握し生活づくり10ヶ条という目標を定め、これに基づいたケアを行っている。意思表示が難しい方の把握は、表情、しぐさ、行動を共有することで本人本位になるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や趣味をご家族からお聞きし、入居前の住環境に近づけるよう努めている。また、馴染みの家具などお持ちいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個別の生活記録を記入し状態把握と記録に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(A ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族の意向を聞き取ったうえで現状のADLや普段の言動等も材料にし、計画作成担当者、作業療法士、介護職員等の話し合いを経て介護計画を作成している。</p>	<p>利用者ごとに担当者がおり、日々の状況を家族に伝えることで、意向の確認を行っている。これを計画作成担当者に伝え、法人内の作業療法士や看護師と連携をしケアプラン原案を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>様子については個別記録に記入を行い、情報共有を行っている。それを基に介護計画や特にケア手順について適宜見直し、更新を行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>空床の場合ショートステイとしての利用が可能。また災害時には避難場所としての開放用意がある。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>現在の情勢を踏まえ、なかなか協働は難しい状況にある。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>母体法人のクリニックと24時間連携している。他科受診の場合は往診に来ていただいたり、紹介状にて通院されている。可能なご家族には同行していただき、医師と直接のやり取りをしていただく。</p>	<p>法人母体が医療法人であり、利用者はほぼ全ての方が法人の医師が主治医となっている。月に2回往診があり、訪問看護も同席している。24時間オンコール体制で訪問看護が対応しており、安心して医療を受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(A ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携を行っており、週に一回程度母体法人の看護師が訪問し状態を把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会の際に都度様子を伺い状態の把握を行っている。退院が近付くと当法人所属の看護師と共に病院へ出向き情報提供を受け介護計画に反映している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師、看護師、家族、職員でカンファレンスを持ち、説明、情報の共有、今後の方針等を話し合い、支援できるようにしている。	利用開始時に看取りに対する説明を行い、看取りが行える体制を整えている。この1年間は利用者への入れ替わりがないため看取りを行った事例は無い。重度化した場合は、母体が医療法人のためバックアップ体制をとり、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故時には訪問看護師、管理者へ連絡するよう手順が定められている。応急手当や初期対応については医師、看護師より指示が出ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	同敷地内の事業所が合同で行う事で災害時には全員で対処できるよう準備をしている。	災害訓練は同じ敷地内の事業所と合同で年に1回実施している。そのうち1回が夜間想定で実施している。ハザードマップによると、水害による危険な地域となっているため、訓練時の消防署のアドバイスにより隣の4階建ての建物へ避難するよう対応している。	

自己評価	外部評価	項目(A ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修の活用により個々の人格を尊重した言葉掛けや支援を行っているが職員によっては不十分。	一人ひとりの人格の尊重とプライバシー確保のために人権擁護の研修を年に1回実施している。接遇向上のために、接遇向上委員会を法人で設置し、目標を立て、評価につながるよう取り組んでいる。声かけ等のレベルアップにつながるようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	最後には自己決定ができるような言葉掛けを心掛けている。また、拒否される事に関しては強要せずタイミングを変更して援助をさせていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者個々のペースに合わせるよう心掛けている。趣味活動や、掃除の援助等その方の興味のある事に対して配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節の変わり目など必要に応じてご家族に衣類などの補充を依頼し、衣替えを行っている。寝ぐせ、眼ヤニ等自身で整容が難しい方は援助を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事中のテレビ鑑賞を行わないようにし会話しながら食事を楽しんでいる。ミキサー食の方については元の食材が何であったか説明を行いながら食事介助を行っている。	食事は3食簡易食材の配達で提供されているが、温かい料理は暖かく適温で提供されている。夏には菜園でとれた野菜を活用し利用者にも盛り付けを担っていただいた事例もある。また、毎月ある行事のときには、手作りのスイートポテト、ケーキ等を提供している。	

自己評価	外部評価	項目(A ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>嚙むことが難しい方にはキザミ食やミキサー食の提供を行い、液体での水分摂取が難しい方については増粘剤の使用やゼリーの活用などで対応を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、義歯洗浄、うがい、歯ブラシなどで口腔ケアを行っている。歯科との連携を行っているので必要に応じて研修を受ける事の出来る体制ができています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>1人1人の排泄パターンを考え、トイレ誘導をしたり、入居者の出すサインを見逃ごさないように努力している。</p>	<p>座位保持ができる方には、入退院でオムツ使用の方も、トイレで排泄できるように支援している。このため、寝たきり状態にはならず、座ることで会話も笑顔も増え、メリハリのある生活が送れるよう支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>それぞれの排泄パターンを把握し、個別のケースに関しては医師と相談の上、薬の処方がなされている方もいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴日、時間は完全に自由とは言えませんが体調や気分によって順延する等対応を行っている。</p>	<p>基本的には週に2回入浴しているが、入りたい希望がある方には対応できる体制にしている。季節ごとにゆず湯、菖蒲湯と楽しみのある入浴を支援している。また、座位保持ができる方には介助であっても湯船にゆっくりと浸かってもらうことで入浴を楽しめる支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(A ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>基本的に皆良く眠られており、一部夜間も活動的な方もおられるが床に就くことを強制はせず、適宜案内する程度に留めている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬は施設側で管理をさせていただき処方の際の説明と処方箋の内容から把握ができています。服薬介助中は飲み込まれるまでしっかりと確認を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>床掃除や机拭き等、個々の能力に応じて役割を担っていただいている。散歩や塗り絵、なぞり絵等の余暇活動も適宜行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>現状、外出の機会はなく、他科受診の時のみになっている。以前は買い物と一緒にいくなどし、外出の機会を設けていた。</p>	<p>コロナ禍以前は、近隣のスーパーや、神社に参拝を行っていたが現在は法人敷地内の花を見に行ったりと散歩に出かけるようにしている。コロナ禍が落ち着けば初詣や、桜の花見、紅葉狩りと外出する機会を設ける予定である。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>家族管理を基本としている。現在、金銭を普段から所有しておられる方はいないが、日常生活に用いる範囲であれば自己責任とはなるが持ち込み可能。</p>		

自己評価	外部評価	項目(A ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>使用に関してはご本人の残存能力次第ではあるが携帯電話の持ち込み等について制限は行っていない。希望があれば固定電話を使用していただくことも可能。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節や行事に応じて壁に掲示する物を変えており、作成には一部利用者の方も関わっている。</p>	<p>リビングはロールカーテンを2段にしていることで光の調光を工夫し、吹き抜けになっているため広く感じ過ぎしやすい空間となっている。また、季節ごとに入居者と一緒に壁画も作成している。机や椅子の高さにもこだわっており数種類を組み合わせることでその人その人に合ったものを使用している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>使用している机の性質上、利用者同士が真正面から向かい合うことはなく、適度な距離感を維持することができる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時に馴染みの家具を持ち込んで頂き、可能な限り在宅時の雰囲気を持ち込めるようにしている。釘を打つ等できないがピン止め程度であれば壁を装飾することも可能。</p>	<p>ベッド、カーテン、エアコン、洗面台は備え付けである。その他のものは、危険物以外であればご自宅や使いやすいものが持ち込み可能である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>床、手すり等バリアフリー構造であり廊下で歩行練習をすることも出来る。またトイレや浴室にはわかりやすいように大きく表示がされている。</p>		

V アウトカム項目(A ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(B ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	法人理念に則り事業所の目標を立て、それに準じた目標を個別に計画する用紙を作成(チャレンジシート)		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は近隣への散歩の際に挨拶など地域の方と交流の機会があったが最近では散歩の頻度、距離が減り交流の機会が減っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々との交流がなかなか取れてはいないが、ご家族からの相談であったり、見学に来られた際には相談内容に沿ってお話をさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	報告内容については毎回報告書を作成しそれを基に話をしている。昨年度はご家族代表からの要望で担当職員からご家族への手紙(入居者様の様子等を記入)を再開した。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	コロナ禍により集まっての会議は行っていないが、毎回書面にて送付、事業内容を説明している。		

自己評価	外部評価	項目(B ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内外の研修を通して、身体拘束に対する理解を高めている。また、昼夜間での安全目的以外での施錠は行っておらず、玄関も開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会への参加や、実際に現場で不適切な場面を見かけた際は都度注意を行い情報発信を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内の研修に参加し制度の勉強、理解を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に同意を得ており、その後も個人的な質問に随時対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話や面会時にご要望を受けた際には申し送り時や文書作成及び回覧にて周知し改善を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(B ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り時や普段の会話内容から検討できる部分は検討を行い、再度職員の意見を取り入れつつ反映を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	チャレンジシートの導入にて個々の年間目標を定め、やりがいにつなげている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	介護部門のマニュアルの統合整備を行い、新入職員へ行う教育が全事業所で統一された。現在は実地で使用しながら精度を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者単位では系列施設との連絡会議や研修会などで情報交換、交流の機会を得ている。職員単位では自施設・他施設の人員不足時に職員の応援で相互にやり取りがある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	担当の職員を設定し日常生活に積極的に関わることで信頼関係を構築できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(B ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話や面会、手紙等を通してできるだけ受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	センター方式を取り入れ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	普段から掃除やテーブル拭きなど可能な範囲で手伝っていただき、出来る事はしていただけるよう援助を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	衣替えや布団の入れ替え等、節目に応じた対応をご家族には依頼し、ご本人の生活の一端を支えていただくようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	居室内での面会は中止しているが、窓越し面会や距離を置いての面会など関係性を保てるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目(B ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>孤立しがちな利用者をリビングにお連れしたり、会話が可能な利用者様同士を隣席にしたりと関係性構築と孤立防止に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>特別の働きかけ、取組みは行っていない。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>本人の意向はもちろんのこと、自身の意思表示が難しい方については生活歴や家族の意向を踏まえてニーズの把握を行っている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>生活歴や趣味をご家族からお聞きし、入居前の住環境に近づけるよう努めている。また、馴染みの家具などお持ちいただいている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>個別の生活記録を記入し状態把握と記録に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を聞き取ったうえで現状のADLや普段の言動等も材料にし、計画作成担当者、作業療法士、介護職員等の話し合いを経て介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	様子については個別記録に記入を行い、情報共有を行っている。それを基に介護計画や特にケア手順について適宜見直し、更新を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	空床の場合ショートステイとしての利用が可能。また災害時には避難場所としての開放用意がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在の情勢を踏まえ、なかなか協働は難しい状況にある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	母体法人のクリニックと24時間連携している。他科受診の場合は往診に来ていただいたり、紹介状にて通院されている。可能なご家族には同行していただき、医師と直接のやり取りをしていただく。		

自己評価	外部評価	項 目(B ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携を行っており、週に一回程度母体法人の看護師が訪問し状態を把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会の際に都度様子を伺い状態の把握を行っている。退院が近付くと当法人所属の看護師と共に病院へ出向き情報提供を受け介護計画に反映している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師、看護師、家族、職員でカンファレンスを持ち、説明、情報の共有、今後の方針等を話し合い、支援できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故時には訪問看護師、管理者へ連絡するよう手順が定められている。応急手当や初期対応については医師、看護師より指示が出ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	同敷地内の事業所が合同で行う事で災害時には全員で対処できるよう準備をしている。		

自己評価	外部評価	項目(B ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修の活用により個々の人格を尊重した言葉掛けや支援を行っているが職員によっては不十分。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	最後には自己決定ができるような言葉掛けを心掛けている。また、拒否される事に関しては強要せずタイミングを変更して援助をさせていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者個々のペースに合わせて心掛けている。趣味活動や、掃除の援助等その方の興味のある事に対して配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節の変わり目など必要に応じてご家族に衣類などの補充を依頼し、衣替えを行っている。寝ぐせ、眼ヤニ等自身で整容が難しい方は援助を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事でのテレビ鑑賞を行わないようにし会話しながら食事を楽しんでいる。ミキサー食の方については元の食材が何であったか説明を行いながら食事介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(B ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>噛むことが難しい方にはキザミ食やミキサー食の提供を行い、液体での水分摂取が難しい方については増粘剤の使用やゼリーの活用などで対応を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、義歯洗浄、うがい、歯ブラシなどで口腔ケアを行っている。歯科との連携を行っているので必要に応じて研修を受ける事の出来る体制ができています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>1人1人の排泄パターンを考え、トイレ誘導をしたり、入居者の出すサインを見逃さないように努力している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>それぞれの排泄パターンを把握し、個別のケースに関しては医師と相談の上、薬の処方がなされている方もいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴日、時間は完全に自由とは言えないが体調や気分によって順延する等対応を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	基本的に皆良く眠られており、一部夜間も活動的な方もおられるが床に就くことを強制はせず、適宜案内する程度に留めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は施設側で管理をさせていただき処方の際の説明と処方箋の内容から把握ができています。服薬介助中は飲み込まれるまでしっかりと確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	床掃除や机拭き等、個々の能力に応じて役割を担っていただいている。散歩や塗り絵、なぞり絵等の余暇活動も適宜行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現状、外出の機会はなく、他科受診の時のみになっている。以前は買い物と一緒にいくなどし、外出の機会を設けていた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族管理を基本としている。現在、金銭を普段から所有しておられる方はいないが、日常生活に用いる範囲であれば自己責任とはなるが持ち込み可能。		

自己評価	外部評価	項目(B ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	使用に関してはご本人の残存能力次第ではあるが携帯電話の持ち込み等について制限は行っていない。希望があれば固定電話を使用していただくことも可能。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節や行事に応じて壁に掲示する物を変えており、作成には一部利用者の方も関わっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	使用している机の性質上、利用者同士が真正面から向かい合うことはなく、適度な距離感を維持することができている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に馴染みの家具を持ち込んで頂き、可能な限り在宅時の雰囲気を持ち込めるようにしている。釘を打つ等できないがピン止め程度であれば壁を装飾することも可能。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	床、手すり等バリアフリー構造であり廊下で歩行練習をすることも出来る。またトイレや浴室にはわかりやすいように大きく表示がされている。		

V アウトカム項目(B ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい西条

作成日 令和3年12月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍の状況の中、なかなか地域との交流の機会が減ってきている。	地域住民との繋がれる機会を持つ。	自治会への参加、活動への参加を目指す。	6カ月
2	20	時勢により面会制限がかかってしまいご利用者様とご家族の繋がりが薄れつつある。	状況が落ち着き次第ご家族様と繋がれる機会を持つ。	状況が落ち着き次第、行事への案内や心置きなく面会できる機会を作る。	3カ月
3	49	現状、外出の機会が減っている。	状況、人の流動を予測しながら外出する機会を作る。	花見や買い物など、少しずつでも外出できる機会を作る。	3カ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。